

審 議 経 過

1. 開 会

2. あいさつ

（松本教育長） 省略

（事務局）

それでは、議事に入らせていただきます前に、本審議会の委員についてご説明します。「伊万里市スポーツ推進審議会条例」の第4条で委員の任期は2年間となっており、一昨年6月に10名の皆様へ委員の委嘱をしましたが、今回、伊万里市スポーツ推進委員協議会の江口泰彦様が、新たに委員となられております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

また、第5条の規定にありますとおり、審議会には会長及び副会長を置くことと定められており、会長に伊万里市スポーツ協会の吉武幾二郎様、副会長に伊万里市スポーツ推進委員協議会の池田レイ子様になっていただいておりますが、池田様が変わられておりますので、後任の江口様を副会長として事務局から提案させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（異議なしの声）

ありがとうございました。皆様にご承認いただきましたので、江口様、どうぞよろしくお願いいたします。

これからの議事進行につきましては、吉武会長にお願いしたいと思っております。

3. 報告事項

（会長）

それではさっそく報告事項にまいります。（1）令和6年度社会体育行事について、まずは①から⑦まで、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

資料を用いて、下記について説明

（1）令和6年度社会体育事業について

- ①社会体育行事の結果
- ②各種表彰者
- ③各種補助金
- ④体育施設の利用状況
- ⑤体育施設の改修等状況

⑥地域運動広場等真砂土等支給状況

⑦国見台公園の総合的整備に係る経過報告

(質疑)

委 員 : スポーツ合宿誘致推進事業について、陸上合宿が夏と冬に開催され同じ学校が参加しているが、市が誘致しているのか。

事務局 : アスリートアカデミーについては、伊万里実業高校と敬徳高校の陸上部顧問である先生が中心となって開催されており、参加する学校へはその先生が声掛けをされている。

委 員 : この事業はホームページでも公開されており、今年は佐賀大学の合気道部も活用されているが、予算面の制限はあるのか。

事務局 : 予算措置で不足が生じる場合は、補正あるいは流用等での対応を考えている。

委 員 : 新体育館建設については、どの程度の規模となるのか。プロチーム誘致もできる規模なのか。

事務局 : 基本計画段階ではあるが、県民スポーツ大会レベルの開催ができる規模を想定しており、市民の利用を第一とした規模としている。

委 員 : 市スポーツ協会としては、文化的な行事開催も可能で、かつ、避難所など防災施設としての役割を担う施設となるよう願っており、具体化されてうれしく思う。予算面もあるだろうが、ネーミングライツだけでなく様々な手法で、市民と共同して財源確保にも努めていただきたい。

委 員 : 新体育館建設後も駐車場を確保していただきたい。

(会長)

続きまして、(1) 令和6年度社会体育行事の⑧について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料を用いて、下記について説明

⑧国スポ・全障スポ大会の開催報告

委 員 : 大会参加者は市内の宿泊施設を使用したのか。

事務局 : ホッケーについては、市内だけでは不足したため、佐世保市中心の市外にも宿泊されている。野球は県内6会場で開催され、伊万里市会場で試合があったチームは市内に宿泊された。全障スポ参加者については、対応が可能な宿泊施設に限られるため、県内だけでなく長崎県も含めたところで宿泊されている。

委 員 : 大会の経済効果は試算できているのか。

事務局 : 経済効果については、県が行う試算方法と統一する必要があることから、県の試算を待っている状況である。

4. 協議事項

(会長)

協議事項に入りたいと思います。協議事項について提案をお願いします。

(事務局)

資料を用いて、下記について説明

(1) 令和7年度社会体育基本方針

(2) 令和7年度社会体育行事計画

(3) 令和7年度社会体育関係予算

(質疑)

●令和7年度社会体育基本方針

委 員 : 散弾銃射撃場の終息の目途は。

事務局 : 今後継続する水質調査の経過をみながらの判断となる。

●令和7年度社会体育関係予算

委 員 : ハーフマラソンについては、近年参加者数が増えているが、補助金は増やす必要はないのか。

事務局 : ハーフマラソンは、市補助金だけでなく、参加者からの参加料や企業からの協賛金を運営財源としており、参加者が増えても賄えている状況にある。

委 員 : 体育施設管理事業について、国見台管理事務所の会議室に空調設備を設置してほしい。使用については料金を徴収してもよい。

また、陸上競技場の擁壁改修工事の時期はいつの予定か。

事務局 : 6月に入札し業者を決定するので、工事は7月から翌年2月頃になる予定。外側第7レーンまでは使用に影響がでる可能性があるため、競技会を開催する市陸上競技協会と協議していく。

委 員 : プロスポーツ連携事業については、今年度の佐賀ブルーナース試合観戦ツアーは貸し切りバス3台で佐賀アリーナへ行き、大変盛況であった。今後もプロスポーツチームとの連携した取り組みを進めていただきたい。

5. その他

- 委員：国スポ、全障スポが終わり、今後は高まったスポーツに対する機運をさらに高めていく必要がある。女子で3位になったホッケーは大変盛り上がったので、ホッケーのまちとして今後取り組んでいくのも一つの方法であるが、皆様の意見はいかがか。
- 委員：施設が必要な競技や運営母体がない競技については継続が難しい。先日の県内一周駅伝では伊万里市チームが3位となり、東西松浦駅伝でも伊万里のチームが上位に入賞している。走るだけなら市民の誰もが取り組みやすいし、施設も必要ないので、こうしたところに支援ができないだろうか。近くに遊具もない公園があるが、子供たちはボールを持ってきて楽しんでいる。日常的に楽しめる環境があるといい。
- 委員：少年野球チームは、以前は13チームあったが、8チームまで減少している。子供の少子化に加え、サッカーやバスケなど選択肢も増えている。中学校部活動の地域移行についてはどう変わっていくのか。
- 委員：一昨年10月から検討委員会を組織し検討を進めているが、おっしゃるように部員減でチームを組めないところもあり、部活動のために区域外の学校に通う子もいる。令和5年度の中体連から地域クラブの参加も可能となり、地域、学校それぞれの関わり方について様々な検討を進めている。
- 委員：少年野球のチームも将来的には中学校区単位となり、指導者も中学校まで関わることになるだろうと考えている。先生方と連携し、子供たちの部活動ができる環境を整えなければならない。
- 委員：山代ジュニアアスリートクラブは、東小学校と西小学校の児童合同による陸上クラブであり、西小学校グラウンドで練習している。西小学校が閉校後も練習環境を確保する必要がある。

(事務局)

以上をもちまして、スポーツ推進審議会を閉会します。